大鳥中学校区 小・中連携子ども育成プランの具体的内容　（令和７年度）

目指す児童・生徒像	令和7年度　重点項目
主体的に考え行動できる児童・生徒	・「自分の考えを表現できる児童・生徒の育成」

今年度重点項目を受けて、重点的に取り組む内容に「☆」

			取組項目	具体的内容
具体的な連携方法	カリキュラムの連続		授業研究	年3数回の参観授業を行い、主体的に考えて行動できることを意図した授業での連携を深めていく。
			読書指導	読書をする環境を整え、落ち着いた中で読書習慣を定着させ、豊かな感性、想像力、読解力の育成を図る。
		☆	小中共通のきまり	小中学校一貫した生活指導、学習指導を行うためのきまりや規律を共有し、小中共通した指導を行う。
	児童・生徒の交流		大鳥中生徒会による学校紹介	大鳥中生徒会が中心となり、学校紹介用のパンフレットや動画を作成する。これらを視聴することで、児童が中学校生活への理解を深め、見通しをもてるようにする。 これまで実施してきた授業体験は発展的に解消する。
		☆	いじめ問題を考える めぐろ子ども会議	小学5年生・中学2年生全員を対象にいじめ問題を考える取組を共同で行うことを通して、一貫していじめはいけないことであることを考えさせ自覚を促す。
	教職員間の相互理解		授業研究	年3回の参観授業を行い、主体的に考えて行動できることを意図した授業実践について連携を深めていく。
		☆	生活指導の情報交換	生活指導面での情報交換や指導基準の共有を行い、児童・生徒の生活の実態について共通理解を図り、小中共通した視点で、9年間を見据えた指導を行っていく。
			児童・生徒の交流活動の充実	児童・生徒の交流活動のあり方や、各行事の企画・運営について情報を共有する。
			校長・副校長・教務主任・生活指導主任の連絡会	校内での協議やアンケート結果などを持ち寄り、校長、副校長、教務主任、生活指導主任の連絡協議で「小・中連携子ども育成プラン」について十分な検討、共通理解、推進を図る。なお教務主任間、生活指導主任間で連絡会をもち、提案・調整事項をまとめる。
	接続期の連携		児童対象の中学校体験	生徒会による学校紹介用のパンフレットや動画を活用し、中学進学への希望をもたせ、不安などを解消する。
			保護者対象の中学校説明会	9月学校説明会、2月入学説明会をはじめ、年数回の授業公開などを積極的に行い、中学校の様子を知ってもらう場とする。
			担任連絡会	3月中旬に大鳥中学校へ進学する生徒に関する情報交換を担任等で行う。進学後の様子についても協議会等で情報交換を行い、指導の共通理解を図る。
			キャリア・パスポート	小学1年生から中学3年生まで、発達段階に応じて「なりたい自分」と前期・後期の振り返りを行い、9年間を通じて自己の成長を感じ、可能性を伸ばしていかれるようにする。
		☆	接続期の指導（4月～6月は中学1年生、1月～3月は小学6年生で指導）	1月～3月：小学6年生において、6年間の生活や学習を振り返り、中学校での新たな生活に向けて希望や目標をもたせる。 4月～6月：中学1年生において、円滑に中学校生活が送れるよう丁寧な学校生活のガイダンス、定期考査に向けての学習の仕方などを指導する。また必要に応じて学級担任との面談などを行う。
	家庭・地域との協力	☆	ホームページ・学校だより等での情報交換	各校のホームページや学校だよりで「小・中連携子ども育成プラン」について周知を図る。またそれぞれの取組を随時紹介する。連携校の学校だよりなどを紹介する掲示板を設け、学校訪問者への周知を図る。
			地域教育懇談会との連携 （つなフェスタ）	地域教育懇談会主催の「つなフェスタ」を開催することで大鳥中学区の児童・生徒・地域とのつながりを深める。

＜　振り返り　＞

	令和６年度の成果と課題
カリキュラムの接続	・小中連携の日を通して、「9年間の学び」や「学習用情報端末の活用」等、焦点化して、情報共有することができた。 ・学習や生活のきまりについて今後も情報交換をして、無理のない接続につなげたい。
児童・生徒の交流	・「つなフェスタ」について、児童集会にて動画による事前告知ができたことで、認知が高まった。 ・めぐろ子ども会議では、小グループでの意見交流を通して、参加児童・生徒が主体的に考え、意識を高めることができた。
教員間の相互理解	・年3回の授業公開、意見交換について、授業提供校の負担軽減や焦点を絞っての意見交換等、効率化を図って実施することができた。
接続期の連携	・小6担任と中1担任間で進学前後の丁寧な情報交換ができた。 ・今後も情報共有をはかり、丁寧に進めていく。
家庭・地域との協力	・大鳥中学校区の各校が連携して9年間を見据えた子どもの育成に取り組んでいることを更に周知するため、ホームページや学校だより等、あらゆる機会を通して地域・保護者に情報発信していく。